

徳島大学研究クラスター

「独自の解析技術と疾患科学の融合によるリボソーム創薬の創生」

第2回セミナー

2023年1月18日(水) 17:00~18:30

藤井節郎記念医科学センター・1F ホール

老化細胞が引き起こす 加齢性疾患の生物学

公益財団法人がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部 部長
NEXT-Ganken プログラム がん細胞社会成因説明プロジェクト
プロジェクトリーダー兼任

高橋 暁子 博士

わが国では、がん・動脈硬化・アルツハイマー・肺線維症・骨粗鬆症のような加齢性疾患の増加が深刻な社会問題となっており、その発症要因として老化細胞が関与していることが明らかになりつつあります。

細胞老化はストレスによって誘導され、炎症性蛋白質やエクソソームなどの細胞外小胞を分泌する SASP (Senescence-Associated Secretory Phenotype) をおこすことで、加齢性疾患の発症や個体の機能低下の要因となっていることが近年報告されています。私たちは、これまでに老化細胞で SASP がおこる分子機構の解析や、老化細胞が分泌するエクソソームの解析を行ってきました。

最近では、老化細胞に選択的に細胞死を誘導することで加齢性疾患の発症やがんを抑制しようとする新しい治療戦略「Senolytics」が注目されています。本講演では、がん微小環境における細胞老化の機能と SASP に関する最新の知見を紹介します。

本セミナーは大学院医学研究科、口腔科学研究科、薬学研究科、医科栄養学研究科の大学院特別講義を兼ねています。

お問合せ先： 大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学分野

常松貴明 tsunematsu@tokushima-u.ac.jp 内線 5225

主催：徳島大学研究クラスター「独自の解析技術と疾患科学の融合によるリボソーム創薬の創生」

共催：AMED 革新的がん医療実用化研究事業「がん特異的特殊化リボソームの同定とその機能解析による革新的治療戦略の創出」

